

27E-pm03

ヒューマンイズム、倫理観、使命感等の涵養を目指した「薬学応用演習」の取り組み紹介

○浅野 真司¹, 蓮元 憲祐¹, 服部 尚樹¹, 谷浦 秀夫¹, 稲津 哲也¹ (¹立命館大薬)

本学薬学部では人材育成目的として、「医薬品を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材の育成」を掲げている。この人材育成目的の達成を目指して、2015年度にカリキュラム改革を実施して、低回生から医療人に必須のヒューマンイズム、倫理観、使命感等を涵養することを目的とした体験、演習、グループ学習・発表会等を主体とした科目の新設や整理を行った。現在、1回生時に「薬学基礎演習」を、2回生時に「薬学応用演習」を開講している。今回、「薬学応用演習」(新設1年目)の取り組みを紹介する。

「薬学応用演習」では薬学科の2回生全員(約100名)を対象として、より良い医療人になるための基礎として、①車椅子体験などを通じた高齢者・障がい者の擬似体験の実施、②DMATによる災害時医療について演習を含む小集団学習(SGD)、③福祉施設での体験学習、④薬害問題についての小集団学習(PBL, SGD)と薬害被害者を交えた勉強会、⑤人体解剖実習、またそれらの基盤となる医療倫理、生命倫理の講義などを行う。実施にあたっては、本学の理工学部や生存学研究センター教員のほか、近隣の福祉施設、薬害被害者団体連絡協議会等、滋賀医科大学、学外の大学・施設・団体へ協力を仰いで演習を実施している。

医療人としての倫理観、使命感の向上など(態度)については、明確な基準で測ることが困難であるため、初講から最終講まで、複数回にわたってレポートを実施して、演習前後での意識の向上について評価する。同時に、アンケートなどによる主観的な自己成長感や、意識の変化などを調査し、検証する(評価外)。今後の客観的な評価基準の策定、導入の可能性についても紹介する。